

牛群の選別

THMS

マネージメント情報

TO

1 改良を進める前に牛群を知る

私は、牛群の中には3種類の牛がいると思います。良い意味で目立つ牛、平均的で目立たない牛、そして悪い意味で目立つ牛です。良い意味で目立つ牛とは（経営者の好みによると思いますが）、体型や肢蹄が良い、乳器、乳量、乳質が素晴らしく良い、発情兆候が良く繁殖が抜群に良いなど酪農経営にプラスの効果をもたらす所が優れている牛です。平均的で目立たない牛とは、牛群での乳量、体型、繁殖が平均的であり全体の6~7割をしめ酪農経営を大きく左右する牛です。悪い意味で目立つ牛とは、乳量、乳質が悪い、繁殖が悪い、肢蹄が悪い、病気になりやすいなど手が掛かり悪い意味で目立ってしまう牛です。

2 残す遺伝形質を選別する

牛群で残したくない遺伝は悪い意味で目立つ牛です。残さないためには、和牛の授精やETを行い、生まれた子と販売に回すなどします。または残したい遺伝（良い意味で目立つ牛）から採卵を行い、残したくない牛群に受精卵移植を行い牛群全体の底上げをすることもあります。平均的で目立たない牛の改良は、酪農経営を左右し今後の方向性まで決めてしまう重要な牛群であるため、健康形質や経済メリットの高い遺伝を残したいですね。

一例ですが、面白いデータを見つけたので紹介します。

生産寿命（PL）・娘牛妊娠率（DPR）・体細胞（SCS）の良い種牛と悪い種牛を大規模農場で使用した場合、遺伝でどれほど影響があり、差があるのかを検証した結果です。（Hoards Dairyman から抜粋）

図1 24カ月以降に牛群に残っている割合 生産寿命（PL）

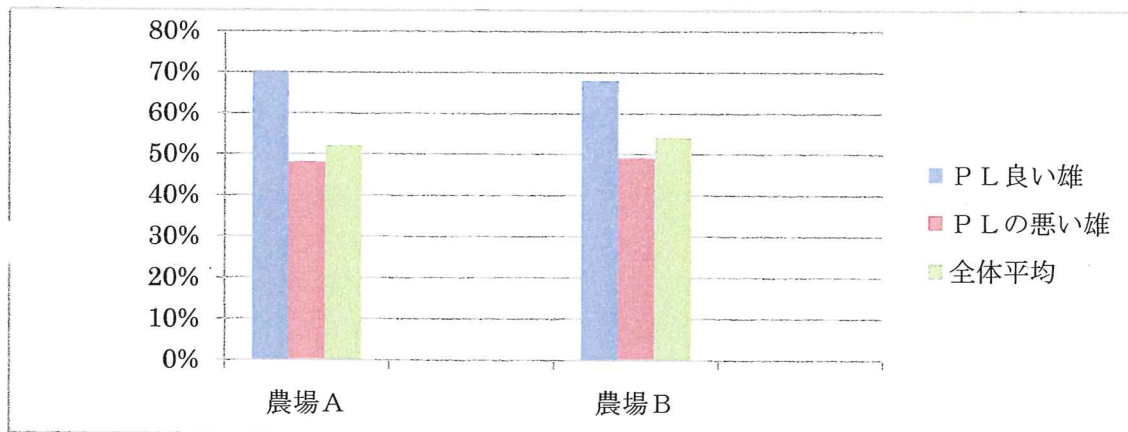


図2 受胎に対する娘牛妊娠率（DPR）の影響

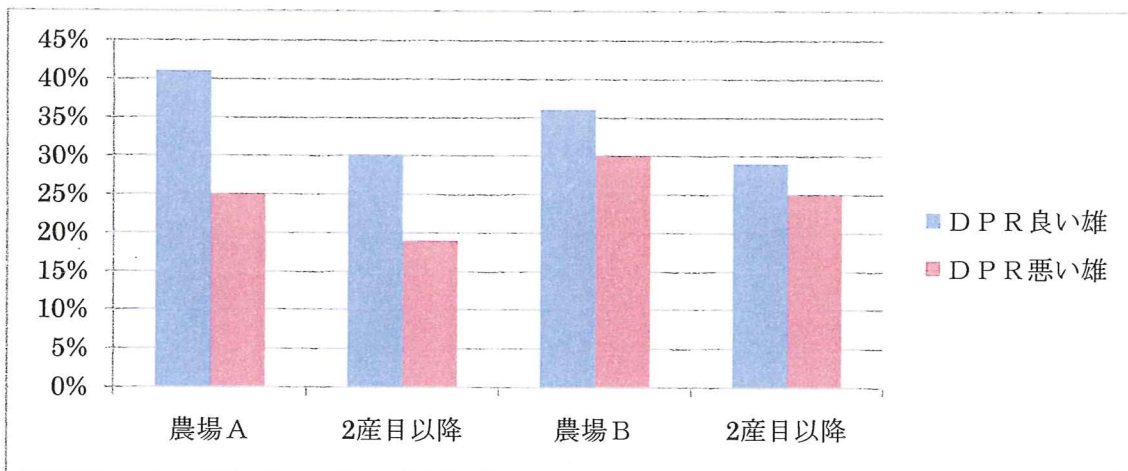
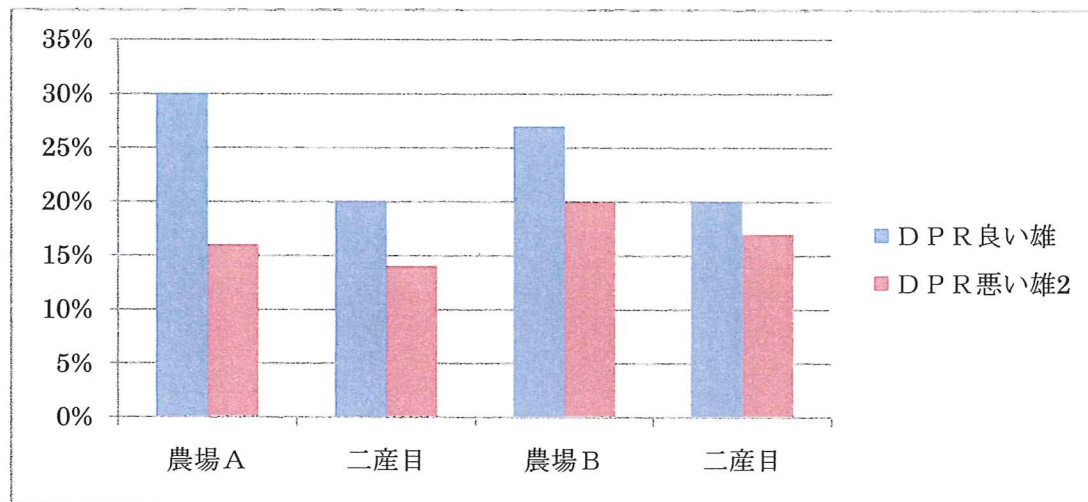
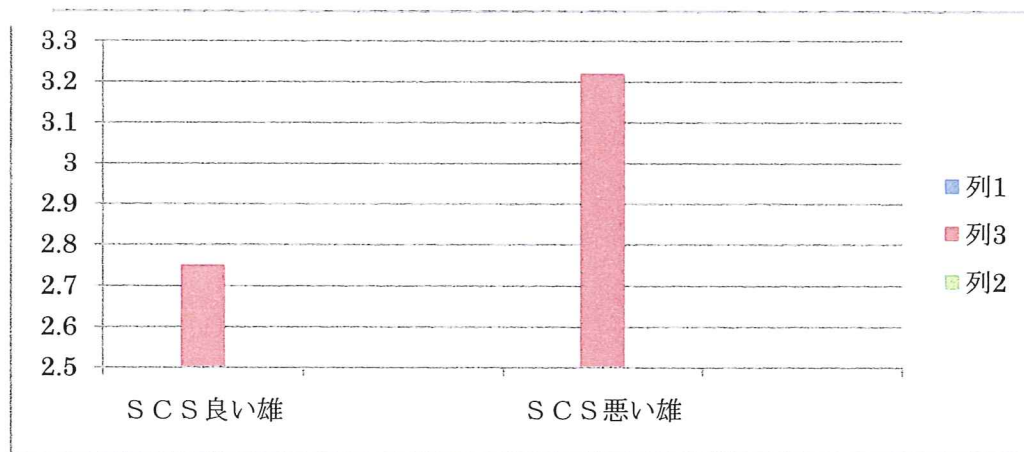


図3 妊娠率に対する娘牛妊娠率（DPR）の影響



体細胞（SCS）の低い種牛は実際に体細胞数を低下させる



Hoards Dairyman 21年10月号541ページから抜粋

、状の生産性を維持させながら健康形質を上げることが可能な時代になりつつあります。そのような改良を皆さんと共に、来年もしていきたいと思ひます。